



MS Word による論文執筆講座（第 11 回）—参考文献のフォーマット—

森谷 友昭（編集幹事 東京電機大学）

Guide for Writing Papers Using MS Word (the 11th) : Reference Formats

Tomoaki MORIYA (Tokyo Denki University)

本学会では、論文の執筆フォーマットとして TeX と (MS) Word を用意している。Word は Windows 環境では長年に渡り使用されている定番の文書作成ソフトである。しかしながら論文のように与えられたフォーマットに沿った文書を作成したい際に思い通り扱えない場合も多い。本連載では論文執筆の際覚えておくと便利な Word の操作を、毎回ピンポイントで紹介している。ちなみに本連載自体も Word にて執筆されている。

今回は、Word に限った話ではないが、参考文献を記述する際のフォーマットについて述べる。現在、画像電子学会誌ならびに論文誌に掲載される論文は、編集委員により校正が行われており、私自身も校正作業を行っている。校正作業でとりわけ多いのが参考文献のフォーマットの修正である。恐らくインターネットで見つけた他のフォーマットで書かれた参考文献のテキストをそのままペーストしたとおぼしき間違い例をよく見かける。参考文献の規定フォーマットは論文投稿用各種フォームの「論文チェックシート」にも記載があるが、今回の記事を参考に是非正しいフォーマットを身につけていただきたい。まず、基本規則は以下の通りである。

- 著者名：日本語使用表記はフルネームで記載する。アジア系で漢字表記するときの姓名の順序は日本人と同じとする。外国人名のカタカナ表記でも姓を先にし、姓と名の間に・(中黒)を挿入する。英語表示著者の first name, middle name はイニシャルで表記しそのあとに family name を記載する。中国系名前の場合は、S.-S. Zhang のようにハイフンを入れる。複数英語著者の区切りには、カンマを使用し、最後の区切りでも and は使用しない。
- 具体的な雑誌名、コンファレンス名などは省略せず、フルスペルを記述する。ただし、Trans. on と Proc. of は使用できる。略称についてはフルスペル表記の後に () 書きで記してもよい。
- フォントは、明朝、或いは、Times New Roman を利用し、イタリックなどを使わない。
- 英語参考文献のタイトルは前置詞と and/or を除き、すべての単語の先頭文字を大文字とする。

- 1), 2), ...の番号に続き次のフォーマットにしたがって記述すること。

以下に日本語論文と英語論文の例を挙げ、間違いやすい点を述べておく。

- 1) 戸塚真隆, 高野邦彦, 大木真琴, 佐藤甲癸: “Web カメラを用いたリアルタイム・キノフォームの動作時間に関する検討”, 画像電子学会誌, Vol.39, No.1, pp.71–75 (2010).

タイトルを囲む二重引用符は曲線型（開始と終了が相違）と呼ばれるもので、始まりが上にちよんちよんの“”，終わりが下にちよんちよんの””である。また、ページ数の間にある横棒はハイフンではなくダッシュ（2 種類あるダッシュのうち、短い方の en ダッシュ）を用いる。Word では Ctrl+[テンキーのマイナス] で入力できる。ハイフンやダッシュの使い分けについては文献2)が詳しい。

- 2) K. Pentikousis, P. Chemoul, K. Nichols, G. Pavlou, D. Massey: “Information – Centric Networking”, IEEE Communications Magazine, Vol. 50, No.7, pp. 22–25 (2012).

英語著者名の姓と名の見分けは日本語ネイティブにはなかなか難しいが、姓が先（その時は姓の後に通常はカンマが挿入される）のフォーマットもあるので引用する際は注意する必要がある。

参考文献

- 1) <https://www.iieej.org/call-for-papers/submission-of-papers/>
- 2) SONY, SDNA ローカライズチームブログ, ハイフンと似て非なる横棒の正体とは? http://www.sonydna.com/sdna/solution/pr_loc/blog/20140924.html (2018).



森谷 友昭（正会員）

2007 年 東京電機大学大学院先端科学技術研究科情報通信メディア工学専攻博士課程入学, 2010 年 同 修了. 同年 同大 未来科学部情報メディア学科 助教, 2018 年 同大 未来科学部情報メディア学科 准教授, 現在に至る. コンピュータグラフィックスの研究に従事. ACM SIGGRAPH, 電子情報通信学会各会員, 本学会編集幹事.